

第4章 神明後遺跡第34地点の本調査

I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12～16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡・苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い、今後徐々に再開発が進むと思われる。

本遺跡の最初の調査は1987年に大井町史編纂事業の一環として行われた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2010年3月現在36地点で試掘調査および発掘調査が行なわれている。

これまでの調査で、縄文時代中期前半～後期前半の住居跡、集石、炉穴等を検出しているが、住居は遺跡の東側に集中し、集落の主体をなす。また、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の溝跡、地下式坑、掘立柱建物跡などの遺構を検出しているが、第2地点の中世遺構は溝で囲われた屋敷地の様相を呈する。

II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2007年12月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央北に立地し、隣接地では集石や地下式坑、溝跡等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

2008年4月30日から同年5月15日まで行なった試掘調査の結果、多数の遺構を検出したので、再協議したが、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。市教育委員会は原因者と発掘調査に係わる委託契約を締結した上で、2008年5月16日から同年5月28日まで本調査を行なった。

調査は遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。調査区内には2m方眼のグリッドを設定し杭打ちを行なった。遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、遺物出土状況図・土層図・遺構平面図・調査区域図等をやり方測量及び平板測量で実測、写真撮影を行ない、調査を終了した。検出した遺構は縄文時代中期の住居跡1軒、落とし穴1基、集石土坑3基、中世以降の溝跡1条、溝状遺構、土坑、ピットである。



第21図 神明後遺跡の地形と調査区(1/4,000)

III 遺構と遺物

(1) 住居跡

① 26号住居跡

【位置】調査区中央に位置し、神明後遺跡縄文集落全体の分布では西側に位置する。土坑1より新しく、落とし穴より古い。

【形状】平面形態は隅丸長方形を呈し、長軸 5.85 m、短軸 4.86 m、確認面からの深さ 0.31 m である。

【炉】住居の中央に位置し、平面形態は円形である。土坑1より新しく、土坑の覆土中に構築されている。炉の西側に焼けて赤化した礫が残る。礫は焼土面を囲うようにあるので、石囲い炉の可能性もあるが、炉の

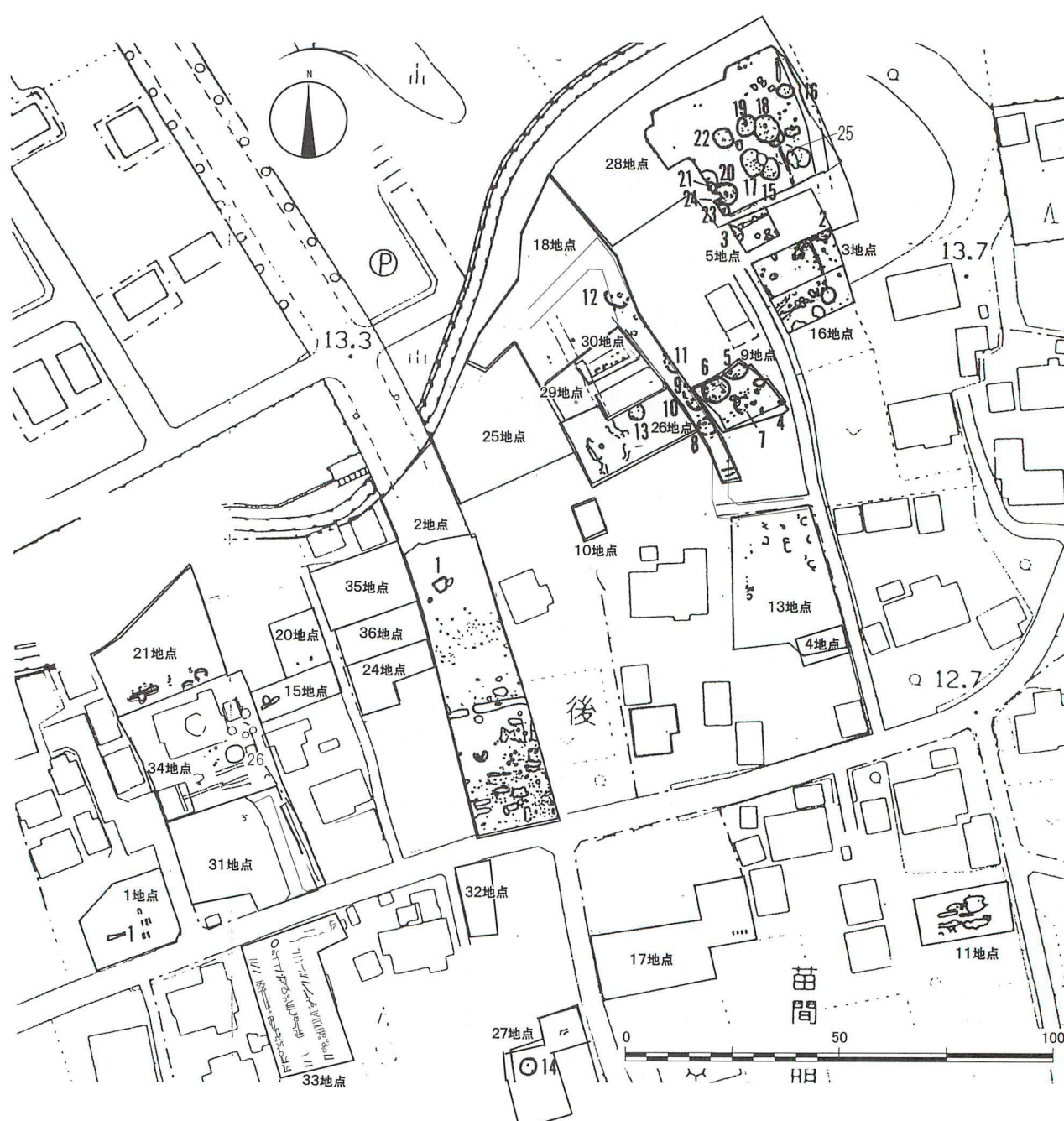
東側には礫がなく、抜き取った痕跡も確認できなかった。長軸 112 cm、短軸 102 cm、深さ 34 cm。

【床・壁】床面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

【ピット】ピットは7基検出した。P1～P4が主柱穴で、P6もP1より古い主柱穴である。柱穴間は230～315 cm である。床面は中央が僅かに窪み、周囲が高い。壁は緩やかに立ち上がる。

【出土遺物】出土遺物は中央付近に集中して出土する。内訳は縄文土器 143 点、石器 4 点、礫 84 点・4,503 g である。

【時期】時期は出土土器から加曾利 E Ⅲ期である。



第22図 神明後遺跡遺構分布図 (1/1,500)

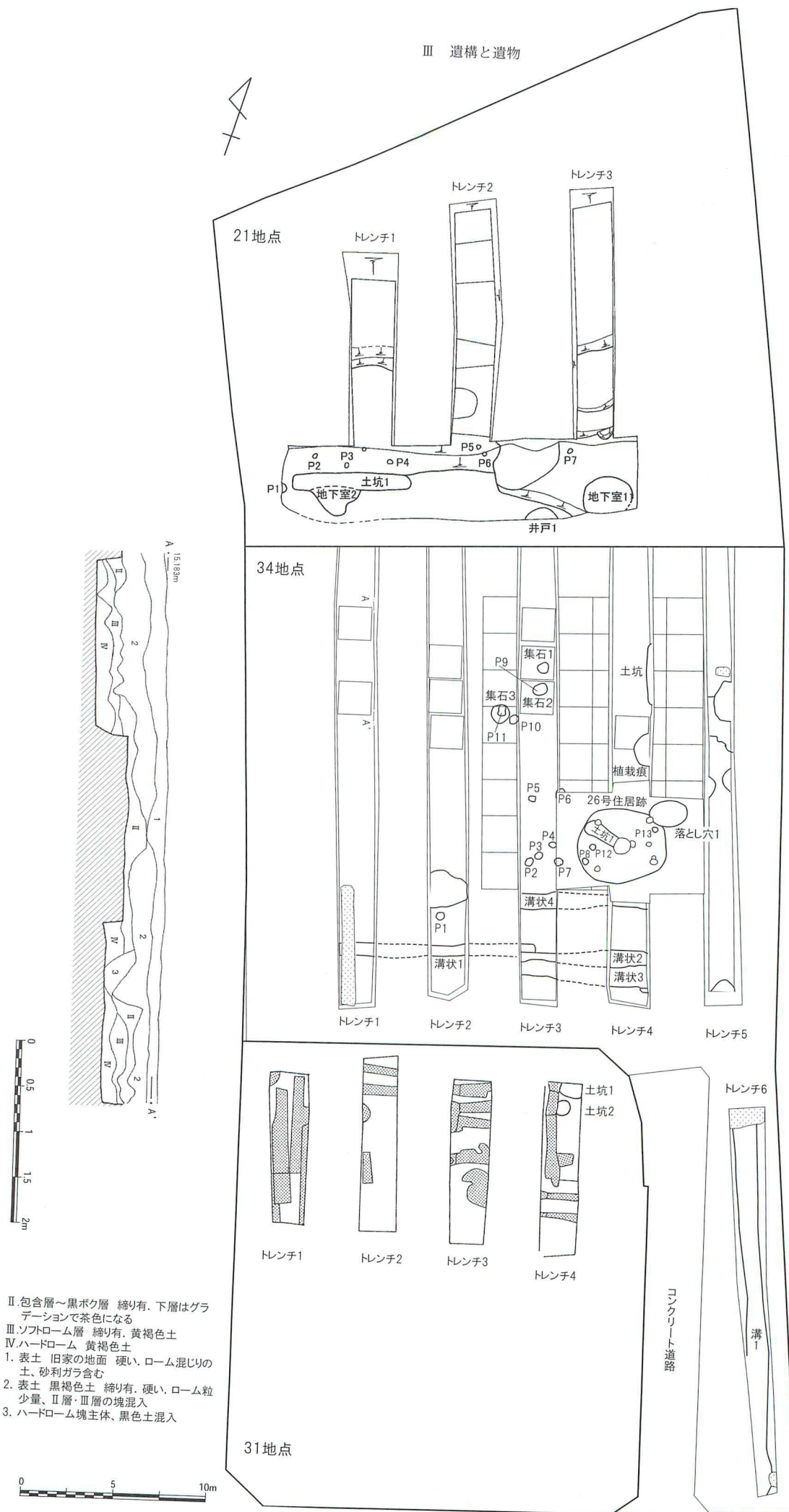
第9表 神明後遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は掘調査	面積 (m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間 281-1	1993.5.6 ~ 5.11	615	共同住宅	遺構なし、平安時代須恵器片、陶器片	町内遺跡群Ⅲ
2	苗間 295-2,299-3	1993.5.12 ~ 5.20	1,688	道路築造	落とし穴1、平安住居1軒(H1号)、縄文土坑1、中・近世掘建柱建物跡、地下式坑1、井戸、堀	町内遺跡群Ⅲ
3	苗間 309-12	(1995.3.24 ~ 3.29) 1995.4.3 ~ 5.19	200	分譲住宅	縄文住居1軒(2号)、伏甕2、埋甕1、土坑2、ピット34他	町内遺跡群Ⅵ
4	苗間 302	(1996.6.17 ~ 6.19)	703	物置	遺構なし、縄文土器片	町内遺跡群Ⅵ
5	苗間神明後 395-5	(1997.3.15) 1997.3.15 ~ 4.2	80	個人住宅	縄文住居1軒(3号)、土坑5、溝、他縄文中期後半～後期初頭	町内遺跡群Ⅵ
6	苗間 255,227-2	(1997.9.29 ~ 9.30)	150	個人住宅	土坑1、土器片・石器片	町内遺跡群Ⅶ
7	苗間 260	(1998.6.1 ~ 6.2)	1,460	個人住宅	近世地下室1	町内遺跡群Ⅶ
8	苗間 235-1	(1998.7.13 ~ 7.24)	458	共同住宅	集石土坑1、土坑2、ピット40、櫓列1、溝	町内遺跡群Ⅶ
9	苗間 310-1	(1998.9.1 ~ 9.11) 1998.9.14 ~ 10.15	219	共同住宅	縄文住居4、集石土坑1、落とし穴1、縄文土坑2、近世土坑1、井戸2、地下室1、ピット33	町内遺跡群Ⅶ
10	苗間 298-1	(1999.9.16)	44	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	町内遺跡群Ⅸ
11	苗間 366	(1999.10.21) 1999.10.22 ~ 10.26	239	個人住宅	土坑17、ピット7	町内遺跡群Ⅸ
12	苗間 282-2・5	(2000.3.6)	211	共同住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群Ⅸ
13	苗間 302-1	(2000.4.17 ~ 4.19)	694	個人住宅	土坑12、ピット	町内遺跡群Ⅹ
14	苗間 252-2	(2000.8.18 ~ 8.23)	357	共同住宅	土坑1、近世掘建柱建物跡1、溝2、井戸1、櫓列、ピット38	町内遺跡群Ⅹ
15	苗間 293 - 15	(2001.4.11) 2001.4.12 ~ 4.13	163	個人住宅	集石土坑1(阿玉台期)	町内遺跡群Ⅺ
16	苗間 309-14	(2001.7.23 ~ 7.24) 2001.7.25 ~ 9.3	165	個人住宅	縄文屋外埋甕4、土坑13、溝2、地下式坑1、地下室1、竪穴状遺構1、ピット38	町内遺跡群Ⅺ
17	苗間 369-1	(2002.3.28)	581	個人住宅	近世溝	町内遺跡群Ⅺ
18	苗間 304-1,303-6	(2002.5.15 ~ 5.25) 2002.5.27 ~ 6.21	672	分譲住宅	縄文中期住居5軒(8～12号)、土坑、古代・中世堀跡	町内遺跡群Ⅻ
19	苗間 264-4	(2002.9.18 ~ 9.20)	216	個人住宅	根切溝、溝4	町内遺跡群Ⅻ
20	苗間 293-11	(2003.1.14 ~ 1.15)	143	個人住宅	中・近世溝2、ピット2	町内遺跡群Ⅻ
21	苗間 283-1	(2003.1.10 ~ 1.30)	674	土地造成	ピット7、井戸1、近世地下室2、土坑1	町内遺跡群Ⅻ
22	苗間 235-2・3	(2003.7.8 ~ 7.29)	430	分譲住宅	井戸1、土坑10、ピット38、江戸後期陶磁器	町内遺跡群Ⅻ
23	苗間 253	(2004.4.9)	62	個人住宅	地下室1、銭貨	町内遺跡群Ⅻ
24	苗間神明後 293-4・10	(2004.9.30 ~ 10.7)	148	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群Ⅻ
25	苗間 295-1	(2004.9.30 ~ 10.7)	660	店舗併用住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群Ⅻ
26	苗間神明後 301、 303-3・4・5,304-1,303-7	(2005.6.1 ~ 6.8) 2005.6.15 ~ 6.30	689	分譲住宅	縄文中期住居1軒(13号)中世地下式坑、近世土坑5、溝	調査会報告18集
27	苗間 248-2,249-1	2005.7.20 ~ 25 2005.7.27 ~ 7.29	385	共同住宅	縄文中期住居1軒(14号)	調査会報告18集
28	苗間神明後 306 - 1	(2006.5.8 ~ 31) 2006.6.29 ~ 10.5	2,171	宅地造成	縄文中期住居11軒(15～25号)、集石23、土坑5、落とし穴1、炉穴3、ピット、溝4、古代・中世堀跡1	市内遺跡3
29	苗間神明後 303 - 21,24	(2006.5.8 ~ 11) 2006.5.12 ~ 19	136	個人住宅建設	ピット1、古代・中世堀跡1	市内遺跡3
30	苗間神明後 303 - 1	(2006.5.8 ~ 19) 2006.12.14 ~ 12.19	101	個人住宅建設	ピット12	市内遺跡3
31	苗間神明後 284	(2007.8.3 ~ 7)	499	個人住宅建設	土坑2	市内遺跡4
32	苗間神明後 247-2	(2008.3.13)	136	個人住宅建設	近・現代攪乱	市内遺跡4
33a	苗間 240-2	(2008.4.25 ~ 5.16)	298	個人住宅建設	落とし穴1、中世以降溝6、井戸2、土坑38、ピット16	未報告
33b	苗間 240-2	(2008.4.25 ~ 5.16)	357	分譲住宅建設		未報告
34	苗間字神明後 283-1,284-1 の一部	(2008.4.30 ~ 5.15) 2008.5.16 ~ 5.28	1,693	個人住宅建設	縄文中期住居1軒(26号)、落とし穴1、集石3、ピット	市内遺跡5
35	苗間字神明後 293 番 6,20	(2008.8.1)	247	個人住宅建設	遺構・遺物なし	未報告
36	苗間字神明後 293-3	(2008.9.2)	165	個人住宅建設	ピット1	未報告

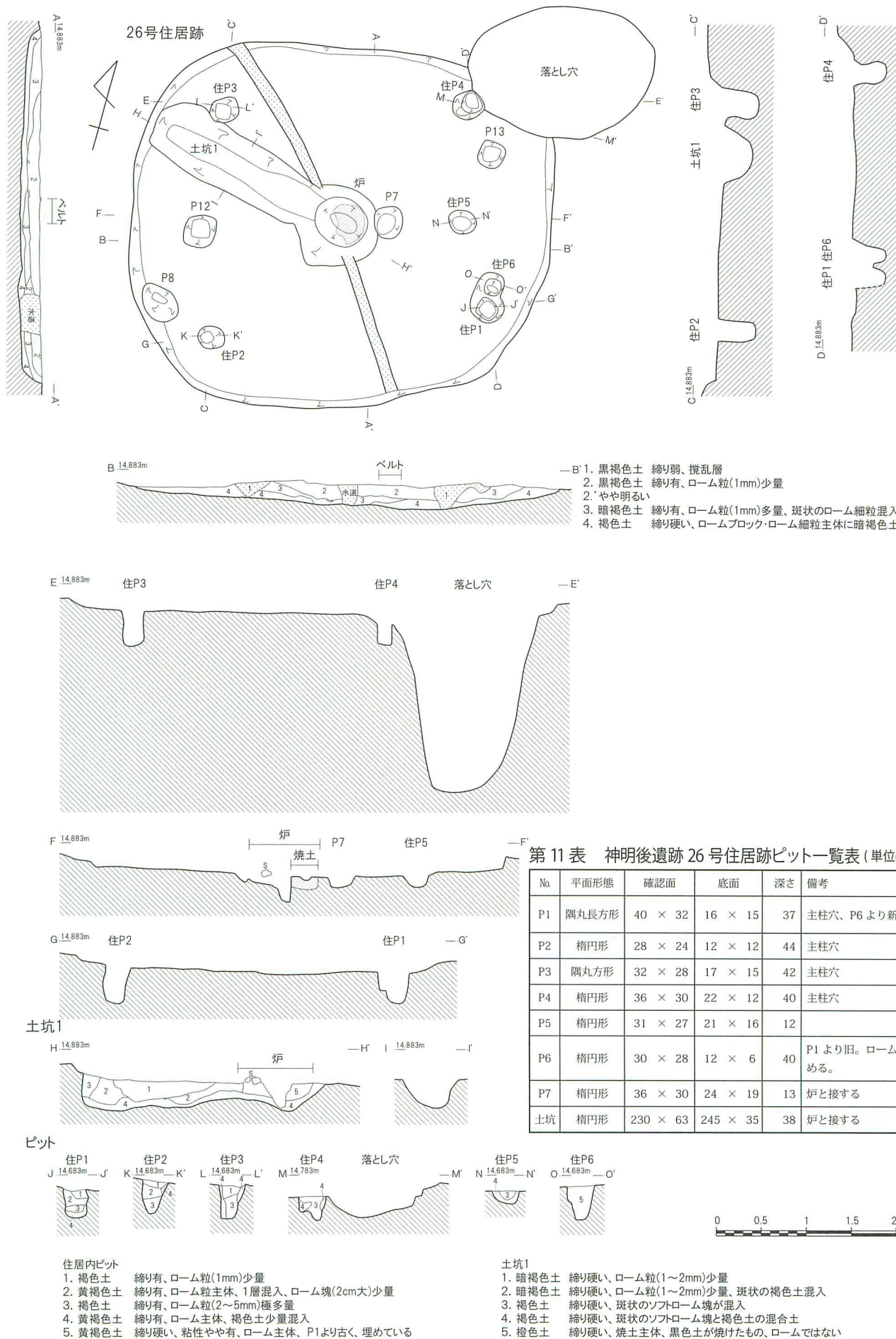
第10表 神明後遺跡住居跡一覧表

(単位cm)

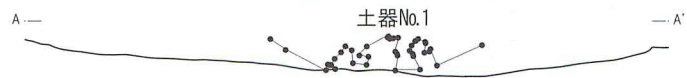
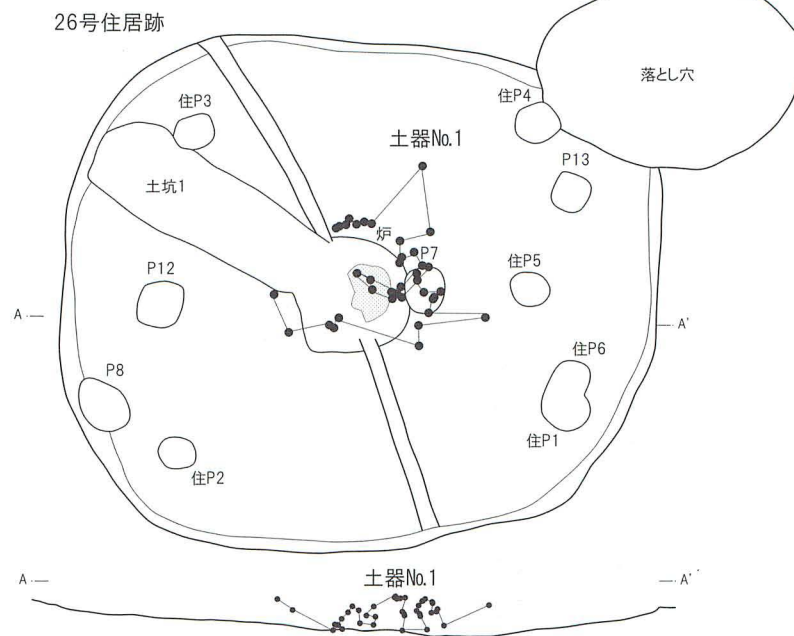
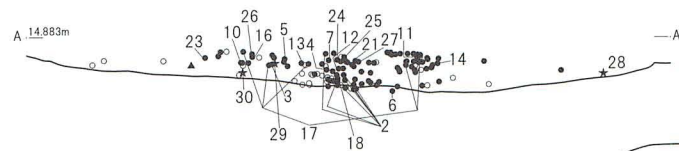
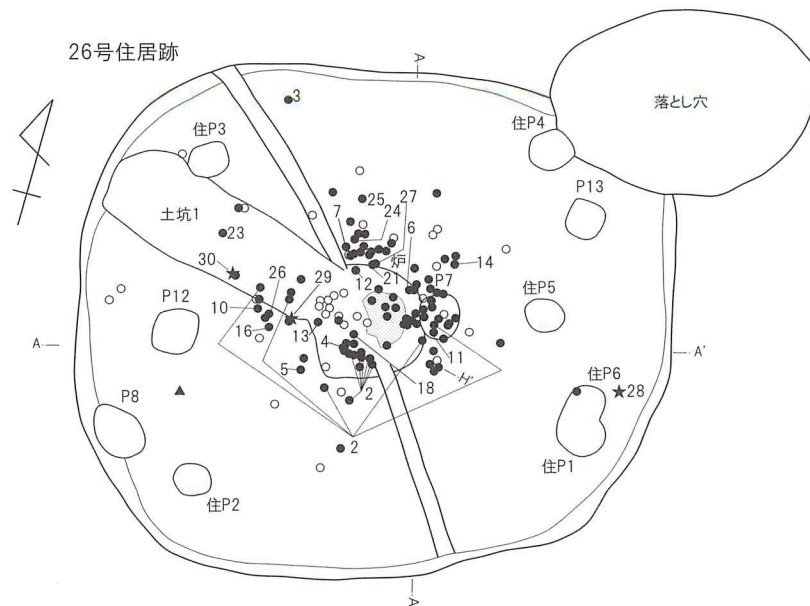
住居 番号	調査率	平面形 () は推定	規模	炉			埋甕	拡張	壁溝	備考	時期	文献
				地床	埋設	石囲						
1号	10%	(円形)	不明		未掘				○	中世土器の下	加曾利 E II	大井町史資料編 I
2号	65%	(円形)	不明×435×16	○	○		○	有		土坑と複合	加曾利 E IV、埋甕も E IV	町内遺跡群Ⅵ
3号	45%	(円形)	410×不明×30			○		有		北半未掘	加曾利 E II 新	町内遺跡群Ⅵ
4号	15%	不明	不明			○		不明	○	攪乱著しい	加曾利 E II 中	町内遺跡群Ⅶ
5号	45%	(円形)	565×?×33	○				有		東北部未掘	加曾利 E II 新	町内遺跡群Ⅶ
6号	95%	円形	596×542×45	○	②		②	有・建替	○	拡張と建替各2	加曾利 E I 新古相	町内遺跡群Ⅶ
7号	70%	円形	不明×498×18	○		○	○	不明		東南部床まで削平	加曾利 E I 新中相	町内遺跡群Ⅶ
8号	70%	(円形)	580×?			○	○	不明		床面攪乱	加曾利 E I	調査会報告16集
9号	50%	(不整形円形)	(490×270)		未掘			有	○	10号に切られる	(加曾利 E I 新新相)	調査会報告16集
10号	50%	不明	(300×250)×50		未掘				○	9号を切る	曾利Ⅲ式	調査会報告16集
11号	40%	(不整形円形)	(490×?)×55		未掘				○	貼床	加曾利 E II	調査会報告16集
12号	70%	(不整形円形)	(570)×550×80	○					○		加曾利 E III	調査会報告16集
13号	完掘	隅丸方形	343×370×13		○	○	○				加曾利 E I	調査会報告18集
14号	完掘	円形	404×403×20	○						2本柱のみ	阿玉台Ⅱ	調査会報告18集
15号	完掘	円形	573×499×35			②				入口に張り出し有、17住を埋める	加曾利 E III	市内遺跡群3
16号	完掘	隅丸方形	338×337×25	②			○				加曾利 E II 新	市内遺跡群3
17号	完掘	隅丸長方形	684×525×70	②			○	有	○	拡張3、15住に切られる	加曾利 E I 新	市内遺跡群3
18号	完掘	隅丸方形	608×600×90	○		△	○		○	石囲いの可能性有、19住に切られる	加曾利 E I 新	市内遺跡群3
19号	完掘	隅丸長方形	476×448×60	②		△				石囲いの可能性有、18住を切る	加曾利 E II～III	市内遺跡群3
20号	完掘	隅丸方形	473×483×28			○				要り口近くに配石、伏甕	加曾利 E II	市内遺跡群3
21号	40%	(隅丸)	?×?×10	○					○	20・24住より古い	加曾利 E I 新	市内遺跡群3
22号	完掘	隅丸五角形	491×513×113	○					○		加曾利 E I 新	市内遺跡群3
23号	25%	不明	?×?×21	②		△				石囲いの可能性有。20住より古、24住より新。	加曾利 E II	市内遺跡群3
24号	10%	不明	?×?×55		未掘				○	20・24住より古、21住より新。	加曾利 E	市内遺跡群3
25号	完掘	不明	(500×400)×5	○			○				加曾利 E II 新	市内遺跡群3
26号	完掘	隅丸長方形	585×486×31	○						土坑1より新、落とし穴より旧。	加曾利 E III	市内遺跡群5



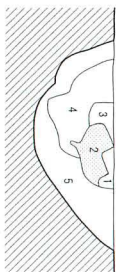
第23図 神明後遺跡第34地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/60)



第24図 神明後遺跡第34地点 26号住居跡 (1/60)

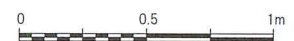
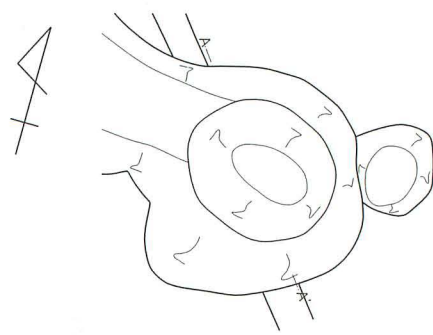
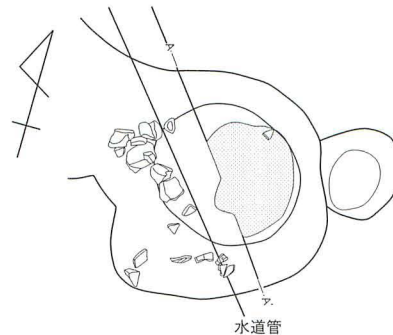


炉



A. 14.783m

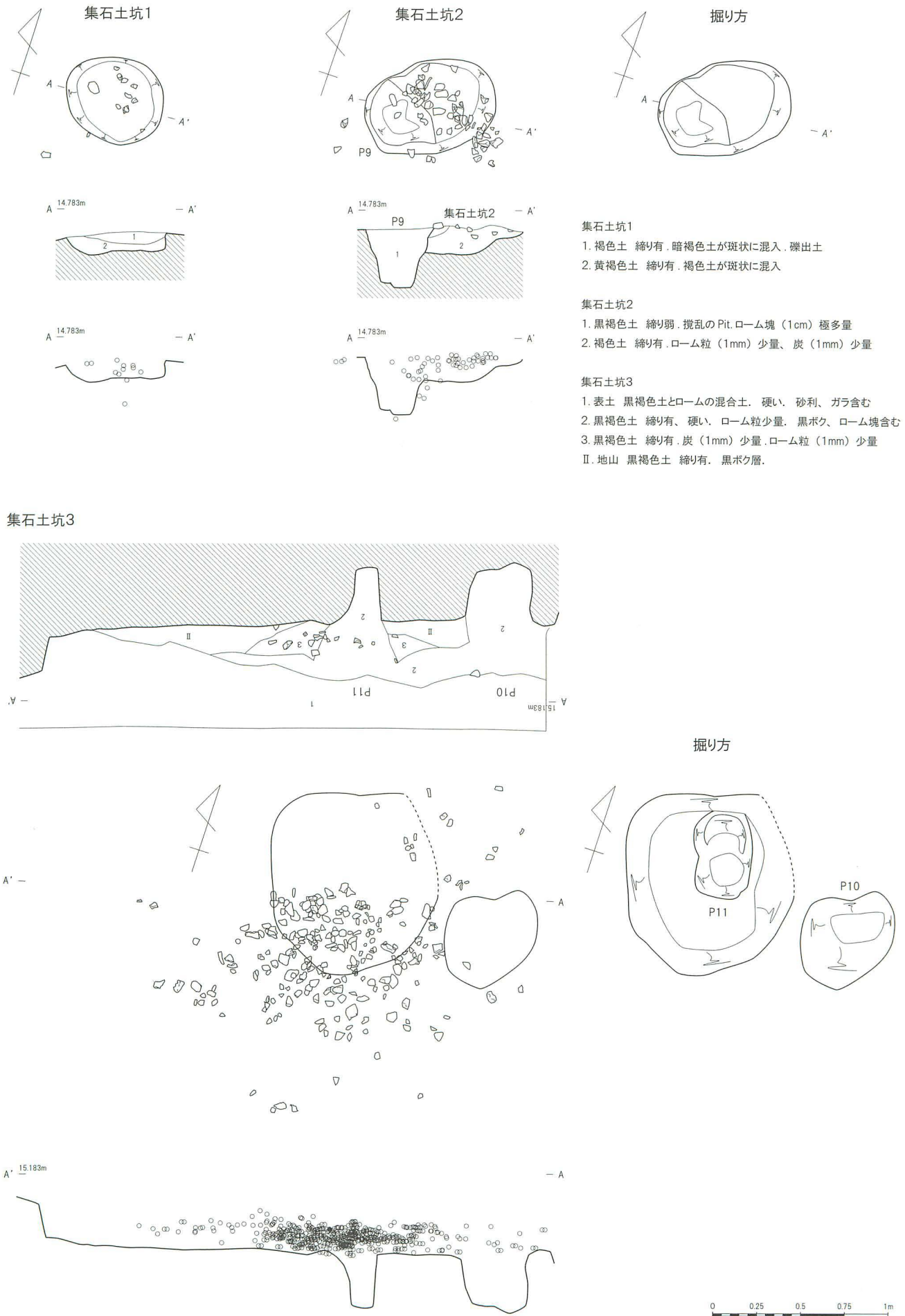
A'



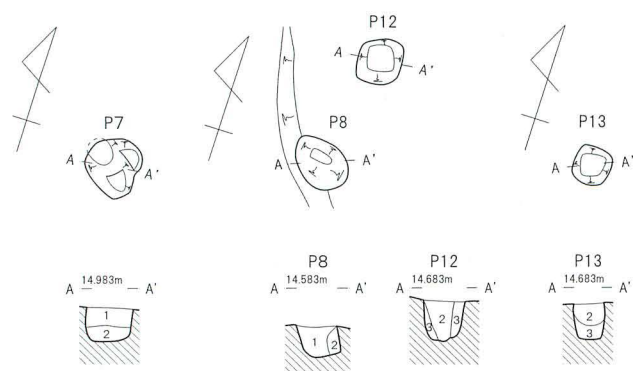
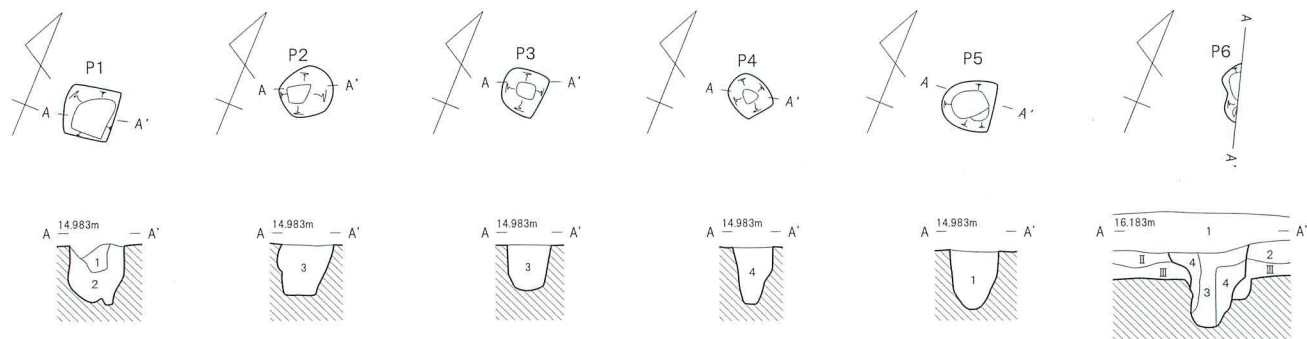
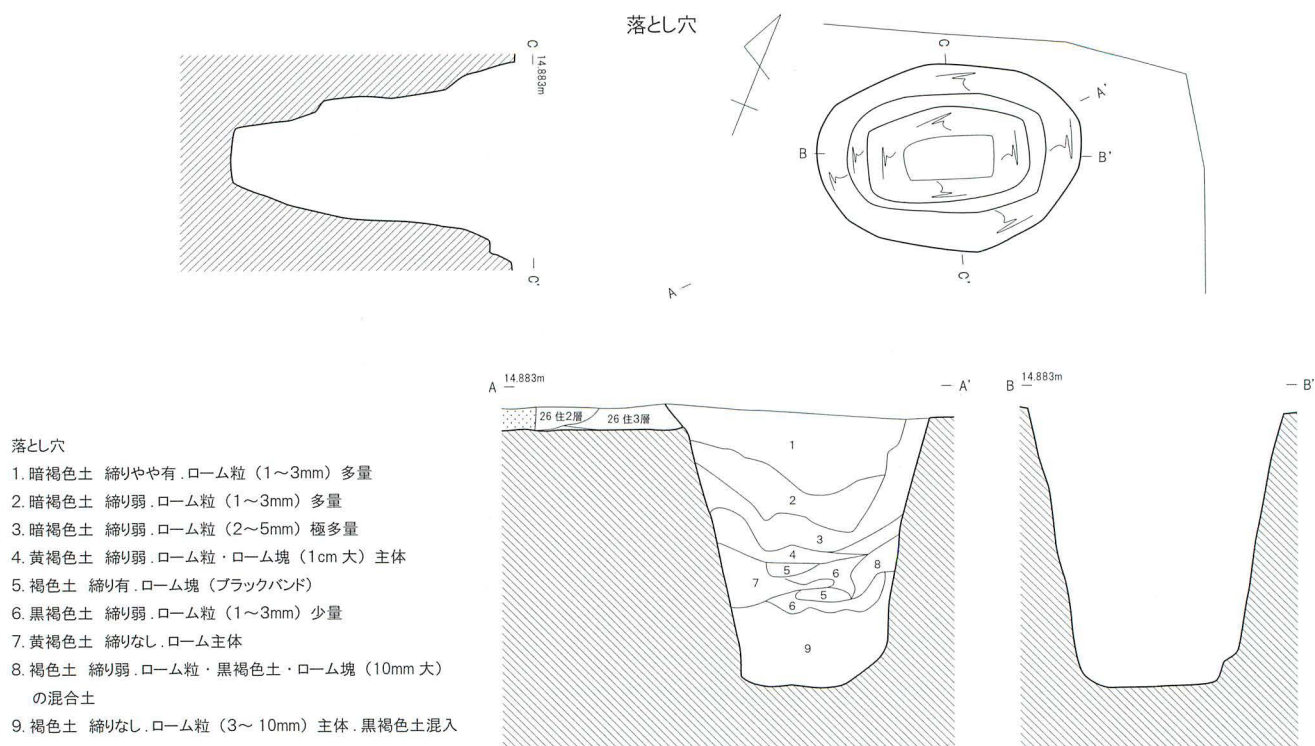
炉

- | | |
|---------|-----------------------------|
| 1. 黒褐色土 | 締り弱、攪乱 |
| 2. 橙色土 | 締り硬い、焼土主体、黒色土が焼けたもの、ロームではない |
| 3. 暗褐色土 | 締り硬い、焼土混入 |
| 4. 暗褐色土 | 締り硬い、ローム粒(1~2mm)少量 |
| 5. 褐色土 | 締り硬い、斑状のソフトローム塊と褐色土の混合土 |

第25図 神明後遺跡第34地点26号住居跡遺物出土状況図(1/60)、炉(1/30)



第26図 神明後遺跡第34地点集石土坑1～3(1/30)



P1~5

1. 暗褐色土 締り弱. 粘土粒少量. ローム粒 (2~3mm) 多量
2. 黒褐色土 締り弱. ローム粒 (2~5mm) 極多量
3. 黒褐色土 締り弱. ローム粒 (5mm) 極多量. ローム塊 (2~30mm 大) 少量
4. 褐色土 締りやや有. ローム粒 (2~5mm) 極多量. 縄文土器が出土したが時期は新しい
5. 黒褐色土 締り有. ローム粒 (2~5mm) 多量

P6

II. トレンチ 1 に同じ

III. トレンチ 1 に同じ

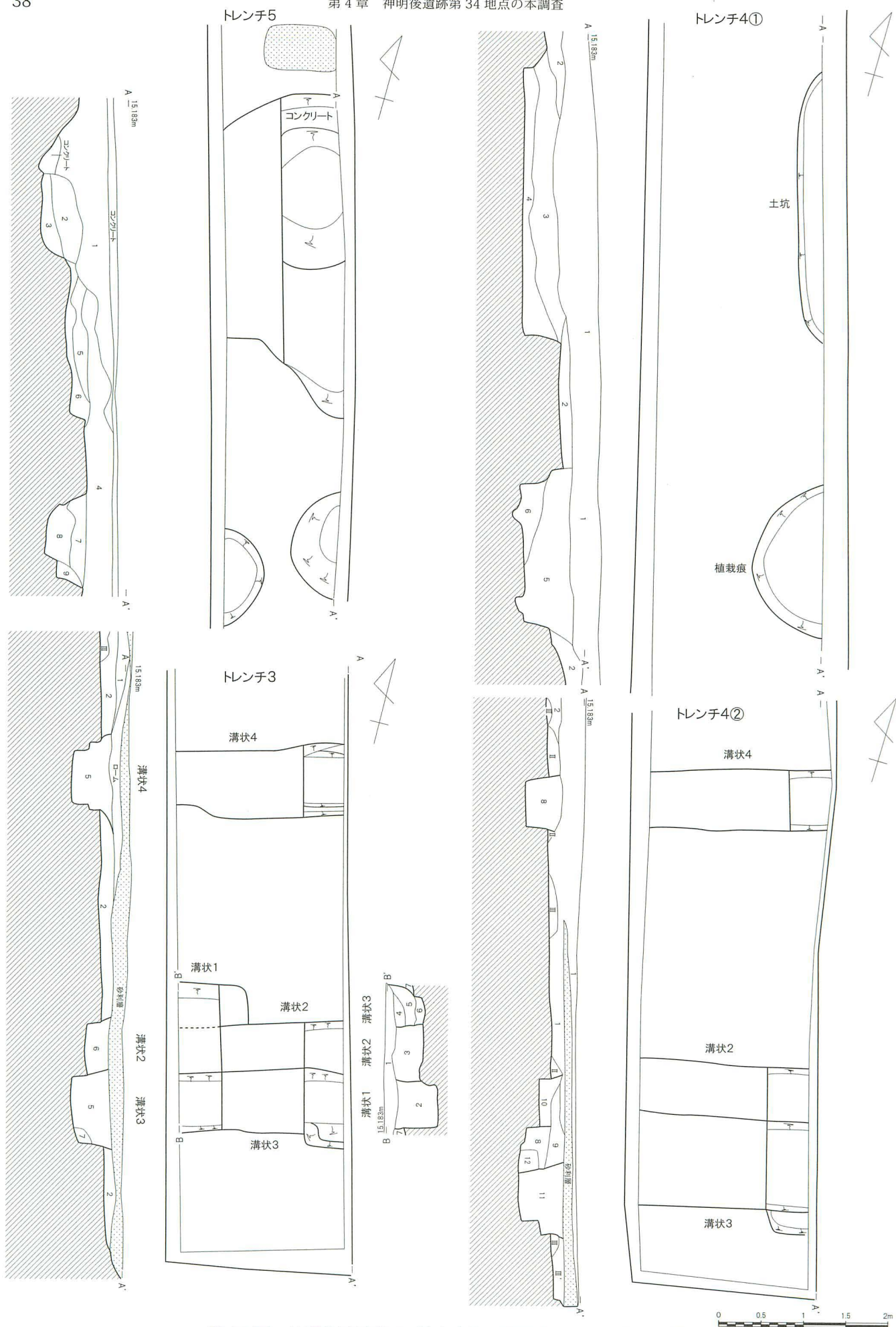
1. 表土. 旧家の地層. ローム混じりの土. 砂利ガラ含む. 硬い
2. 表土. 黒褐色土 締り有. 硬い. ローム粒少量. II 層・III 層の塊混入
3. 黒褐色土 締り有. ローム粒 (1~5mm) 多量
4. 黒褐色土とローム粒の混合土. ローム粒 (1~5mm)

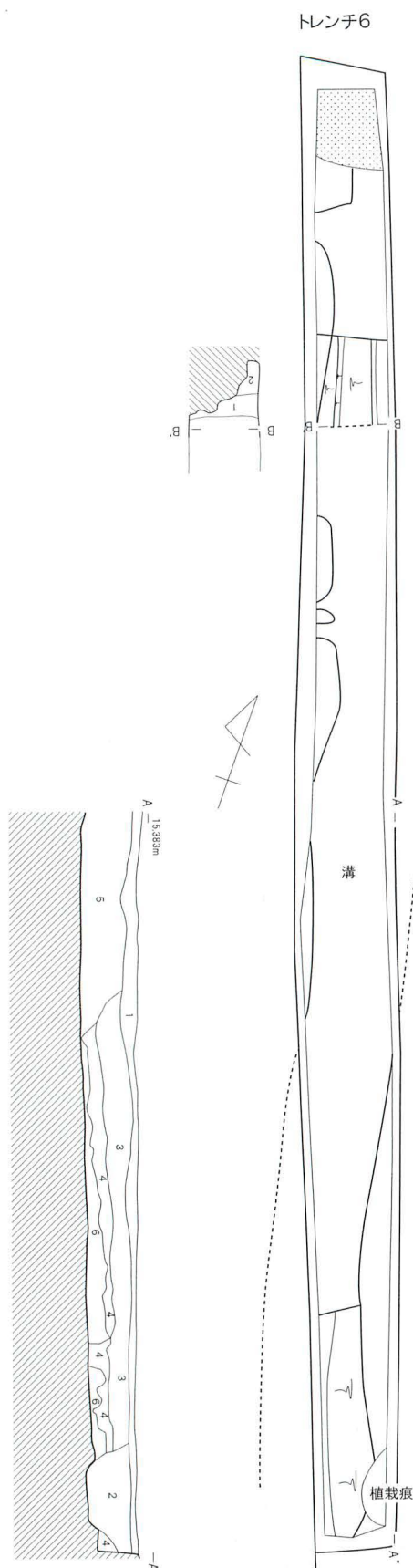
P7, P8, P12, P13

1. 暗褐色土 締り有. ローム粒 (5mm) 極多量
2. 黒褐色土 締り有. ローム粒 (1mm) 少量
3. 黄褐色土 締り弱. ローム粒・ローム塊主体. 黒色土混入

第 27 図 神明後遺跡第 34 地点落とし穴 1・ピット (1/60)







トレンチ 3 A-A'

1. 表土. 旧家の地面. ローム混じりの土. 砂利ガラ含む. 硬い
2. 表土. 黒褐色土 締り有. 硬い. ローム粒少量. II層・III層の塊混入
3. 黒褐色土 締り有. ローム粒 (1~5mm) 多量
4. 黒褐色土とローム粒の混合土. ローム粒 (1~5mm)
5. 褐色土 締り有. 硬い. ローム粒 (1mm) 極多量. ローム塊 (10mm) 多量. イモビツ
6. 暗褐色土 締り有. 硬い. ローム粒 (1~5mm) 極多量. ローム塊 (1~3cm 大) 少量
7. 黒褐色土 締り有. ローム粒 (1~3mm) 少量

トレンチ 3 B-B'

1. 表土. 旧家の地面. ローム混じりの土. 砂利ガラ含む. 硬い
2. 表土. 黒褐色土 締り有. 硬い. ローム粒少量. II層・III層の塊混入. イモビツ
3. 黒褐色土 締り有. ローム粒 (1~5mm) 多量
4. 暗褐色土 締り有. ローム粒 (1mm) 少量
5. 黒褐色土 締り有. ローム粒 (1mm) 多量. ローム塊 (3cm 大) 少量. イモビツ
6. 黒褐色土 締り有. ローム粒 (2~3mm) 極多量. イモビツ

トレンチ 4

1. トレンチ 3 A-A' と同じ
2. トレンチ 3 A-A' と同じ
3. 暗褐色土 締りやや有. ローム粒 (2~3mm) 多量
4. 暗褐色土 締りやや有. ローム粒 (2~5mm) 極多量
5. ローム塊主体. 黒色土混入. 硬く締る. 植栽痕
6. 黒褐色土 締り有. ローム塊極多量. 植栽痕
7. 黒褐色土 締り有. ローム粒 (1mm) 多量. 表土
8. 暗褐色土 トレンチ 3 の 5 層と同じ. イモビツ
9. 暗褐色土 締り有. 硬い. ローム粒 (2~3mm) 多量
10. 暗褐色土 締り有. ローム粒 (2~5mm) 極多量. ローム塊 (1cm 大) 少量.
11. 黒褐色土 締り有. ローム粒 (2~5mm) 多量. ローム塊 (1~5cm 大) 多量
12. 黒褐色土 締り有. ローム粒 (2~3mm) 多量

トレンチ 5

1. 黒褐色土 締り有. ローム塊 (1~3cm 大) 多量. コンクリートの基礎埋土
2. 黒褐色土 締り有. ローム粒 (5mm) 少量. 植栽痕
3. 黒褐色土 締り有. ローム塊 (1~3cm 大) 多量. 植栽痕
4. 黒褐色土 締り有. コンクリート基礎に圧迫されているか. 地山. トレンチ 3 A-A' の 2 層と同じ
5. 黒褐色土 締り有. ローム粒 (1~3mm) 多量. 焼粒・炭極少量. 縄文らしき土だが. 自然のくぼみ
6. 黄褐色土 締り有. ソフトロームに 5 層が混入
7. 暗褐色土 締り有. 硬い. ローム粒 (1~5mm) 極多量. 植栽痕
8. 黒褐色土 締り有. ローム粒 (1~5mm) 多量. 植栽痕
9. ローム塊主体. 褐色土混入. 植栽痕

トレンチ 6

1. 埋土. 解体時の硬化面
2. 暗褐色土 締り有. ローム粒 (1~3mm) 多量. 新しい植栽痕
3. 表土. 黒褐色土 締り弱
4. 黒色土 締り弱. ローム粒・ローム塊極多量
5. 根切溝. 黒褐色土 締り弱. ローム粒 (2mm) 少量. 底からコンクリート杭出土
6. 地山ローム. ハードローム

トレンチ 6 溝

1. 黒褐色土 締り弱. ローム粒 (1~3mm) 少量. ローム塊 (5cm 大) 少量
2. 暗褐色土 締り弱. ローム粒 (1~3mm) 極多量



第 29 図 神明後遺跡第 34 地点溝 (1/100)

(2) 集石土坑

調査区中央北寄りに3基が集中する。3基とも出土土器はなく、時期不明である。

①集石土坑1

規模が小さく、破損した礫が散在する程度である。

②集石土坑2

規模は小さいが、破損した礫がややまとまって出土する。集石土坑2をP9が壊している。

③集石土坑3

礫の範囲が径2m前後もあり、完形礫が比較的多く密集する。集石土坑3の北側に礫が少ないのは、表土除去の段階で掘り下げすぎたせいである。集石土坑3をP11が壊している。

(3) 落とし穴

調査区中央、26号住居跡の北東に接し、住居跡より新しい。33地点で検出した落とし穴の50m北に位置する。長軸方位はN-72°-Eである。中層にローム主体の土が入る。

(4) 溝

溝1は調査区南側、南北方向に位置する。底部近くの断面は幅の狭い直方形で、根切り溝の様相がある。

(5) 溝状遺構

調査区南側で、断面「L」の長方形土坑を検出した。いわゆるイモ類を貯蔵する「イモビツ」と思われる。溝状遺構1～3、5は重複しており、1→2→3→5の順に構築されている。

(6) 土坑

土坑1は26号住居跡の炉から北西方向に細長い土坑が延びる。炉よりも古く、土坑が埋没した状態で炉を構築している。

(7) ピット

P8、P12、P13は26号住居よりも新しい。

第13表 神明後遺跡第34地点遺構一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝	南北直線20mへ、断面V字形	～	～	80	根切り溝。
溝状遺構1	長方形、断面L	(1100) × 85	× 55	34	イモビツ。M2より旧。
溝状遺構2	長方形、断面L	(700) × 65	× 55	35	イモビツ。M3より旧。
溝状遺構3	長方形、断面L	(700) × 95	× 75	50	イモビツ。M2より新。
溝状遺構4	長方形、断面L	(700) × 80	× 64	50	イモビツ
溝状遺構5	長方形、断面L	× 80	× 55	50	イモビツ。M3より新。
落とし穴	楕円形、底面長方形。N-72°-E	207 × 149	70 × 35	225	26住居より新。中層ローム主体。
P1	正方形	41 × 40	31 × 26	42	未掘。
P2	円形	42 × 35	18 × 13	40	
P3	正方形	35 × 32	15 × 12	36	
P4	楕円形	34 × 28	11 × 9	47	
P5	円形	40 × 40	27 × 21	51	
P6	(楕円形)	(43) × (15)	(20) × (7)	40	
P7	円形	46 × 45	22 × 17	39	斜向。
P8	楕円形	50 × 32	18 × 7	38	26住居内。住居より新。
P9	楕円形	36 × 32	18 × 15	34	集石2より新。
P10	楕円形	62 × 50	31 × 16	38	
P11	楕円形	50 × 32	20 × 17	38	集石3より新。
P12	隅丸方形	35 × 35	20 × 20	53	26住居内。住居より新。
P13	隅丸方形	30 × 28	20 × 18	49	26住居内。住居より新。

第12表 神明後遺跡第34地点集石土坑一覧表

(単位cm、g)

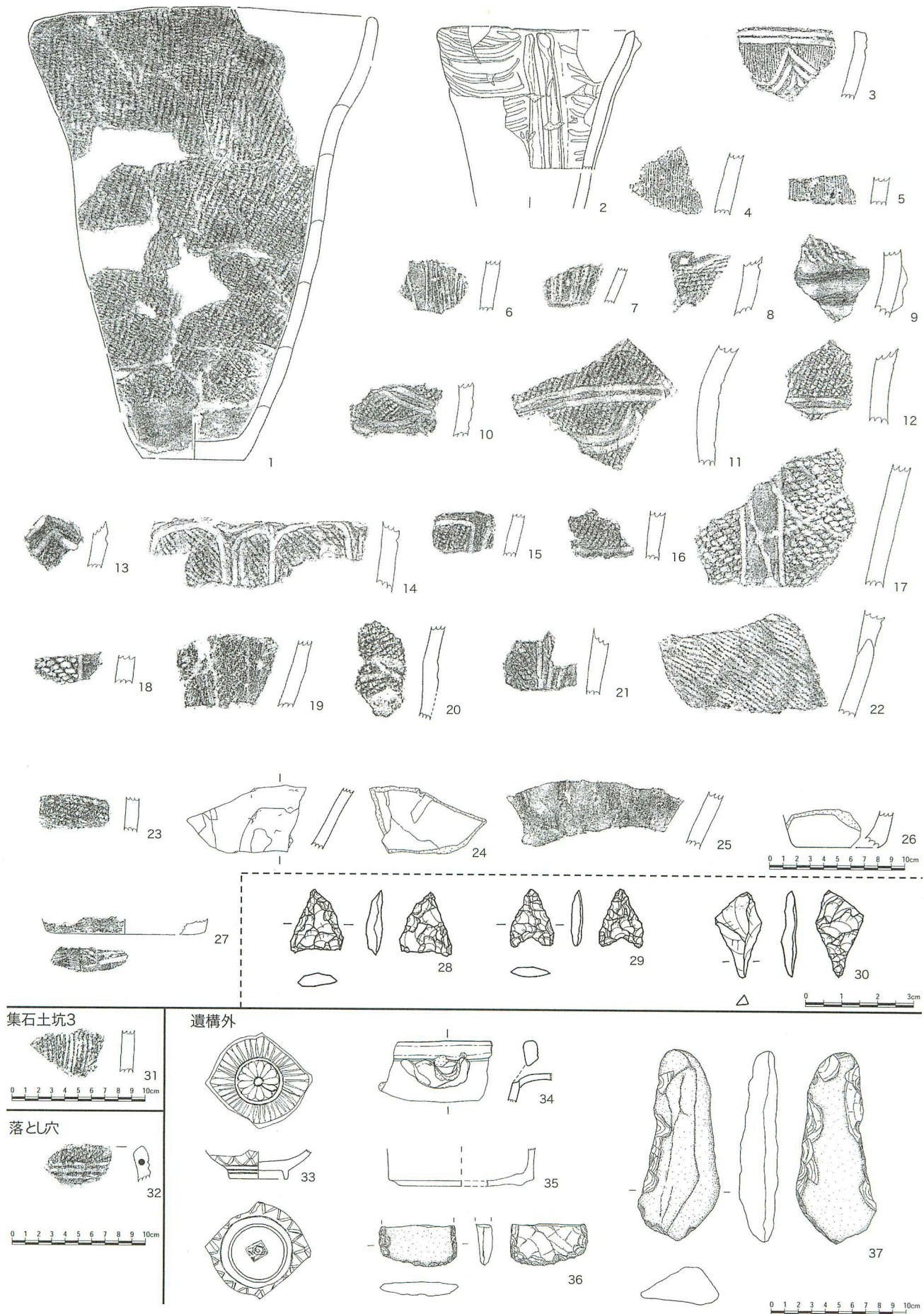
No.	平面形態	土坑確認面	底面	深さ	礫範囲	礫数	重量(g)	平均重量(g)	完形礫		完形礫平均重量(g)	赤化		スス付着		備考
									個数	重量		個数	重量	個数	重量	
									個数比	重量比		個数比	重量比	個数比	重量比	
1	楕円形	58 × 48	47 × 42	14	60 × 40	17	441	26	1	27	27	1	22	0	0	破損礫が散在する。
									5.9%	6.1%		5.9%	5.0%	0.0%	0.0%	
2	楕円形	76 × 53	66 × 45	15	98 × 55	71	2,356	33	13	733	56	1	39	8	421	破損礫が散在する。P9と重複し、古い。
									18.3%	31.1%		1.4%	1.7%	11.3%	17.9%	
3	円形	104 × 94	80 × 65	15	210 × 180	643	16,350	25	126	6,297	50	26	1,552	53	2,599	破損礫と完形礫が密集する。P11と重複し、古い。
									19.6%	38.5%		4.0%	9.5%	8.2%	15.9%	

第 14 表 神明後遺跡第 34 地点出土遺物観察表

(単位cm、g)

掲載 番号	遺構名	出土状況	種別・器種	口径・長	底径・ 幅	器高・ 厚	遺存部位	技法 / 文様 / その他	推定年代・ 時期	備考 / 推定生産地
1	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	25.8	7.6	33.9	3/4 残存	輪積み成形 / 地文 RL 単節縄文を斜位 (左上→右下)、左→右に施文 / 砂粒多量	加曾利 E II	
2	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	(14.7)	—	13.5	口縁～胴部 1/2 以下	輪積み成形 / 地文 2 本組み懸垂隆帯を 4 分割で添付後 (3カ所残存)、隆帯間を弧状の沈線で肋骨状に充填する / 細砂粒多量	加曾利 V	
3	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	口縁部破片	輪積み成形 / 地文櫛歯状条線。口縁直下へ 2 条の平行沈線、口縁部へ 3 条 (以上) の沈線を弧状にめぐらす / 砂粒多量	加曾利 E II 期 連弧文	
4	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文櫛歯状条線 / 砂粒多量	加曾利 E II	
5	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文櫛歯状条線 / 砂粒多量	加曾利 E II	
6	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文半載竹管による条線 / 砂粒多量	加曾利 E II	
7	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部下 半破片	輪積み成形 / 地文半載竹管による条線 / 砂粒多量	加曾利 E II	
8	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	口縁部破片	輪積み成形 / 隆帯添付後、地文 LR 縄文を縦位に施文。隆帯上に列点文 / 細砂粒含む	加曾利 E II 期 連弧文	
9	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	口縁部破片	輪積み成形 / 楕円区画の隆帯添付後、地文 RL 縄文を横位に施文 / 砂粒多量	加曾利 E II	
10	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文 RL 縄文を縦位に施文。2 条の沈線を連弧状にめぐらす / 砂粒多量	加曾利 E II 期 連弧文	
11	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	頸部破片	輪積み成形 / 地文 RL 縄文を縦位に施文。平行な 2 条の沈線直下に 2 条沈線を連弧状にめぐらす / 砂粒多量	加曾利 E II 期 連弧文	
12	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	頸部破片	輪積み成形 / 地文 RL 縄文を縦位に施文。2 条の平行沈線と連弧をめぐらす / 砂粒多量	加曾利 E II 期 連弧文	
13	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文 RL 縄文を縦位に施文。2 条の沈線を連弧状にめぐらす / 砂粒多量	加曾利 E II 期 連弧文	
14	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文無節 L 縄文を縦位に施文。逆「U」字状に沈線で囲い、一部沈線間の縄文を磨消す / 砂粒多量	加曾利 E II 新	
15	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文 RL 縄文を縦位に施文。逆「U」字状に沈線で囲い、沈線間の縄文を磨消す。 / 砂粒多量	加曾利 E II	
16	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文 RL 縄文を縦位に施文。沈線を平行にめぐらす。 / 砂粒多量	加曾利 E II	
17	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文 LR 縄文を縦位に施文。平行沈線で懸垂文を施文し縄文を磨消す。 / 砂粒多量	加曾利 E II	
18	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文 LR 縄文を縦位に施文。平行沈線で懸垂文を施文し縄文を磨消す。 / 砂粒多量	加曾利 E II	
19	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文 RL 縄文を縦位に施文。平行沈線で懸垂文を施文し縄文を磨消す。 / 砂粒多量	加曾利 E II	
20	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文 RL 縄文を縦位に施文。2 条の沈線を連弧状にめぐらす。 / 砂粒多量	加曾利 E II 期 連弧文	
21	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文 LRL 縄文を縦位に施文。平行沈線で懸垂文を施文し縄文を磨消す / 砂粒多量	加曾利 E II	
22	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文 LR 縄文を縦位に施文 / 砂粒多量	加曾利 E II	
23	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文 LR 縄文を縦位に施文 / 細砂粒多量	縄文中期後葉	
24	26 号住居跡	覆土	土器・浅鉢	—	—	—	体部破片	輪積み成形 / 縦位にへう磨き。内外面に一部赤彩が残る / 砂粒含む	縄文中期後葉	
25	26 号住居跡	覆土	土器・深鉢	—	—	—	体部破片	輪積み成形 / 縦位にへう磨き / 砂粒多量	縄文中期後葉	
26	26 号住居跡	覆土	土器・鉢	—	—	—	底部破片	輪積み成形 / 砂粒多量	縄文中期後葉	
27	26 号住居跡	覆土	土器・鉢	—	—	—	底部破片	輪積み成形 / 底部に網代痕 / 砂粒多量	縄文中期後葉	
28	26 号住居跡	覆土	石器・鏃	1.8	1.5	0.3	完形	重 0.97g / 押圧剥離		チャート
29	26 号住居跡	覆土	石器・鏃	1.6	1.3	0.3	完形	重 0.39g / 押圧剥離		黒曜石
30	26 号住居跡	覆土	石器・鏃	2.5	1.3	0.4	完形	重 0.73g / 押圧剥離		チャート
31	集石土坑 3	覆土	土器・深鉢	—	—	—	胴部破片	輪積み成形 / 地文 L r 燃糸を縦位に施文。 / 砂粒多量	縄文中期後葉	
32	落とし穴	覆土	土器・深鉢	—	—	—	口縁部破片	輪積み成形 / 口縁直下に LR 縄文を横位に施文。その下へ半載竹管の腹面による平行結節沈線を 3 列以上施文。 / 雲母・砂粒多量	五領ヶ台後半 (第 III 段階)	山本 2008
33	集石土坑 1	攪乱	磁器・丸碗	—	2.3	—	底部破片	ロクロ成形 / 染付。外面、二重網目文。内面、菊花文・二重圈線・一重網目文。底裏銘、二重角枠に「渦福」	1710 ~ 1720 (江戸 V a 期)	肥 前 成瀬 1996
34	26 号住居跡	攪乱	陶器・片口	—	—	—	口縁部破片	ロクロ成形、穿孔後注口部を貼り付け / 白土刷毛目	1690 ~ 1750 (肥前 IV 期)	肥 前 家田 2000
35	26 号住居跡	攪乱	陶器・香炉	—	(9.0)	—	底部破片	ロクロ成形 / 外面灰釉	17 世紀後 ~ 18 世紀前 (瀬戸 4 ~ 5)	瀬戸・美濃 藤澤 1987
36	遺構外		石器・打製石斧	—	5.9	1.1	先端部	重 27.6g / 両極敲打技法	縄文時代	砂岩
37	遺構外		石器・打製石斧	14.4	5.7	2.8	完形	重 217.9g / 両極敲打技法	縄文時代	ホルンフェルス

26号住居跡



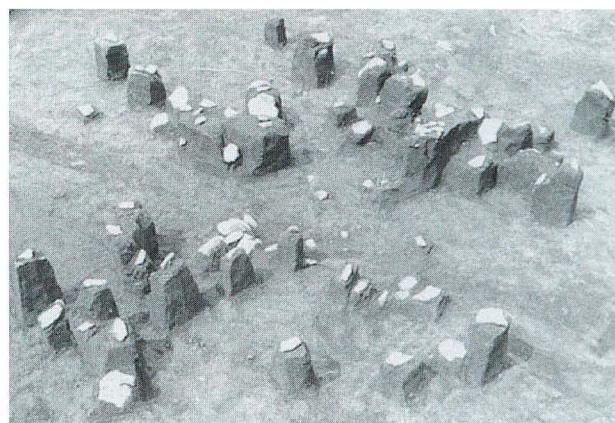
第30図 神明後遺跡第34地点26号住居跡・集石土坑・落とし穴・遺構外出土遺物(1/4・2/3)



神明後遺跡第 34 地点 26 号住居跡



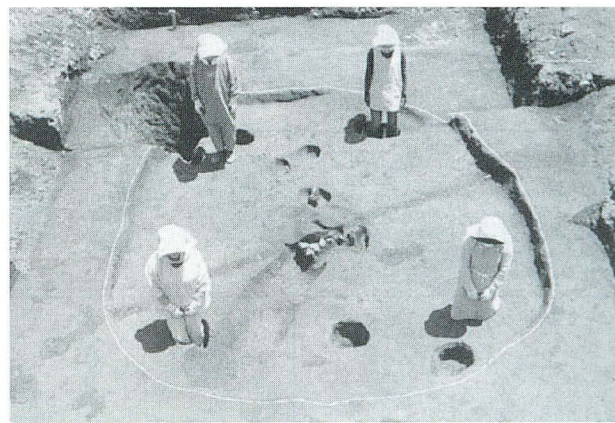
神明後遺跡第 34 地点 26 号住居跡遺物出土状況



神明後遺跡第 34 地点 26 号住居跡遺物出土状況



神明後遺跡第 34 地点 26 号住居跡炉



神明後遺跡第 34 地点 26 号住居跡



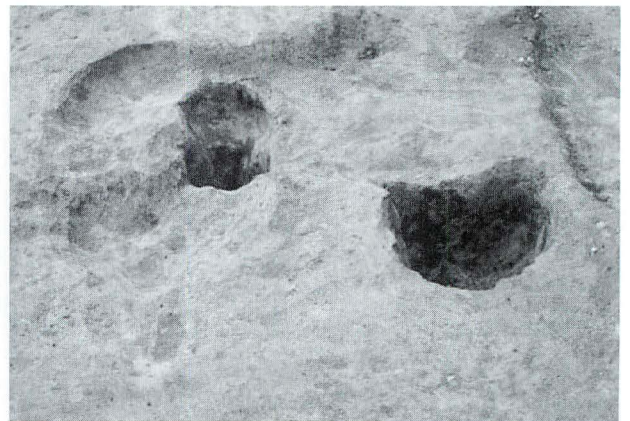
神明後遺跡第 34 地点集石土坑 1 出土状況



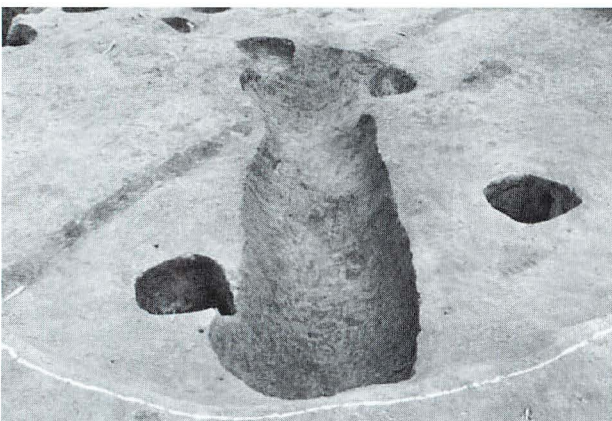
神明後第 34 地点集石土坑土坑 2 出土状況



神明後遺跡第 34 地点集石土坑 3 出土状況



神明後遺跡第 34 地点集石土坑 3 完掘状況



神明後遺跡第 34 地点土坑 1



神明後遺跡第 34 地点落とし穴



神明後遺跡第 34 地点落とし穴



神明後遺跡第 34 地点調査区全景



神明後遺跡第 34 地点溝跡



神明後遺跡第 34 地点溝土層



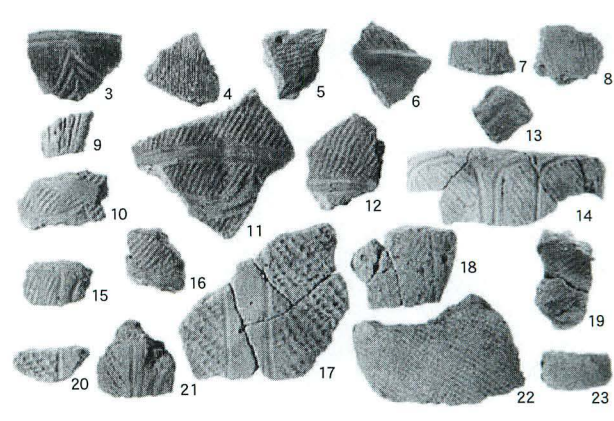
神明後遺跡第 34 地点調査風景



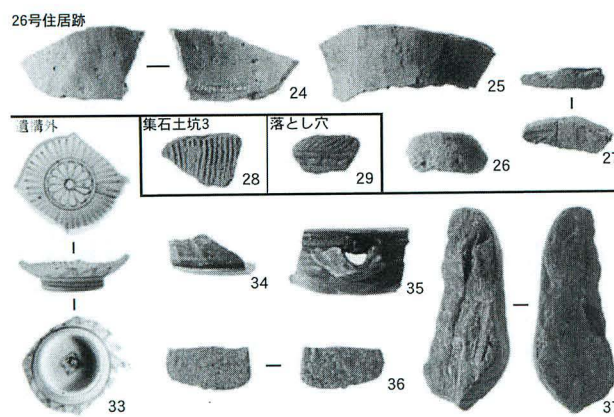
神明後遺跡第 34 地点 26 号住居跡出土遺物 No.1



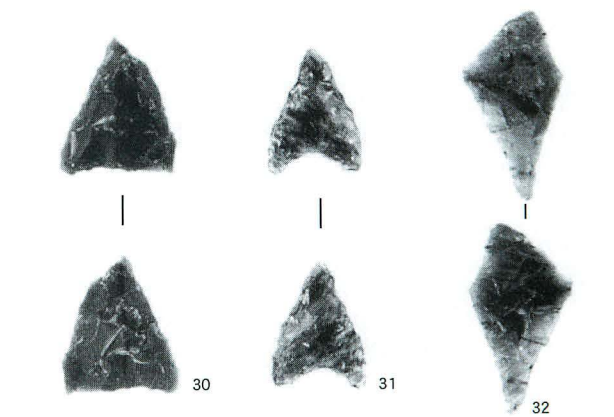
神明後遺跡第 34 地点 26 号住居跡出土遺物 No.2



神明後遺跡第 34 地点 26 号住居跡出土遺物 No.3 ~ 23



神明後遺跡第 34 地点出土遺物 No.24 ~ 29・33 ~ 37



神明後遺跡第 34 地点 26 号住居跡出土遺物 No.30 ~ 32

報告書抄録

書名	市内遺跡群 5	シリーズ名	ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 6 集			
編集者	高崎直成	著者	高崎直成			
編集機関	ふじみ野市教育委員会	所在地	〒 356-8555 ふじみ野市大井中央一丁目 1 番 1 号 TEL 049 (220) 2088			
発行日	2011 年 (平成 23 年) 3 月 18 日					
所収遺跡地点名	所在地	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積	調査原因
		遺跡コード	東経	調査終了	m ²	調査担当者
	種別 // 主な時代・主な遺構・主な遺物					
	特記事項					
つるがおかそと 鶴ヶ岡外遺跡 第 5 地点	さいたまけんふじみのしつるがおか 埼玉県ふじみ野市鶴ヶ岡 5-188-1, 741-1, 198-1, 199-1, 214-1	112453	35° 51′ 55″	20080220	400	共同住宅建設
		30-048	139° 29′ 44″	20080307		越村篤
	集落跡 // 旧石器時代・石器集中 3 カ所・旧石器時代ナイフ、削器、台石					
	本遺跡では最も石器の集中した石器群を検出した。立川ローム第Ⅳ層上部に集中する。					
こまばやし 駒林遺跡第 5 地点	さいたまけんふじみのしこまばやししんでんまえ 埼玉県ふじみ野市駒林新田前 256	112453	35° 52′ 00″	20080530	509	分譲住宅建設
		25-013	139° 31′ 42″	20080628		越村篤
	集落跡 // 縄文時代・集石土坑 3 基・縄文土器 / 中近世・地下式坑 1 基、竪穴土坑 25 基、溝 4 条、柵列、ピット・土釜、瓦質鍋、瓦質鉢、銭貨、陶磁器					
	縄文時代の集石土坑は本遺跡で初検出。周辺で縄文時代の遺構分布を検討していく必要がある。また、調査地は地藏堂墓地 (西の寮) の南側に位置し、地下式坑や竪穴土坑との関係を検討する必要がある。墓地との境界に位置する溝も、調査地点の西側で 250m 近く検出した大溝と一直線上にあり、同一遺構の可能性がある。					
しんめいうしろ 神明後遺跡 第 34 地点	さいたまけんふじみのしなえましんめいうしろ 埼玉県ふじみ野市苗間神明後 283-1、284-1 の一部	112453	35° 51′ 36″	20080516	357	分譲住宅建設
		30-041	139° 31′ 38″	20080528		高崎直成
	集落跡 // 縄文時代・中期住居跡 1 軒、落とし穴 1 基、集石土坑 3 基、ピット・加曾利 E Ⅲ期土器、石鏃、打製石斧 / 中～近世・溝、溝状遺構・近世陶磁器					
	本遺跡における縄文時代中期の住居分布は本地点より 100 m 東側にあり、住居跡は分布中心域より離れる。本地点周辺の縄文時代遺構は集石等が多く、中期住居跡の検出は少ない。また、調査区南で検出した南北方向の溝 6 は、本調査区東側の地点で検出した中世屋敷の区画溝西端の可能性がある。					
ほむら 本村遺跡第 119 地点	さいたまけんふじみのしいちさわ 埼玉県ふじみ野市市沢 3 丁目 4-24 の一部	112453	35° 51′ 12″	20080604	254	共同住宅建設
		30-034	139° 31′ 33″	20080619		高崎直成
	集落跡 // 中世・地下式坑 2 基、土坑 15 基、ピット 60 基・茶臼、瓦質鉢、カワラケ、銭貨、煙管					
	地下式坑は本調査区北側の 104 地点でも 2 基検出しており、地下式坑と土坑群の分布と配置を検討していく必要がある。					

第 13 章 神明後遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約 300m、さかい川の谷頭部から約 1,500m 下った右岸に位置し、標高 12 ～ 16m、現谷底との比高差は 1.5m を測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡・苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い今後徐々に再開発が進むと思われる。本遺跡の最初の調査は 1987 年に町史編纂事業の一環として行なわれた。その後 1993 年に新駅へ延びる道路をはじめ、2010 年 3 月現在 36 地点で試掘調査および発掘調査が行なわれている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

II 神明後遺跡第 33 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅及び個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より 2008 年 3 月 17 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2008 年 4 月 25 日から同年 5 月 16 日まで行なった。幅約 2 m のトレンチを 4 本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、暗褐色土プランを検出した。遺構の性格を確認するためさらに一部を掘り下げ確認したところ、縄文時代の落とし穴、近世以降の井戸、土坑、ピット、溝等であった。確認面まで 80 cm を測るが、建築による遺構への影響がないため工事立会いとした。写真撮影・平板測量による全測図・遺構図面作成等記録保存を行ない、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



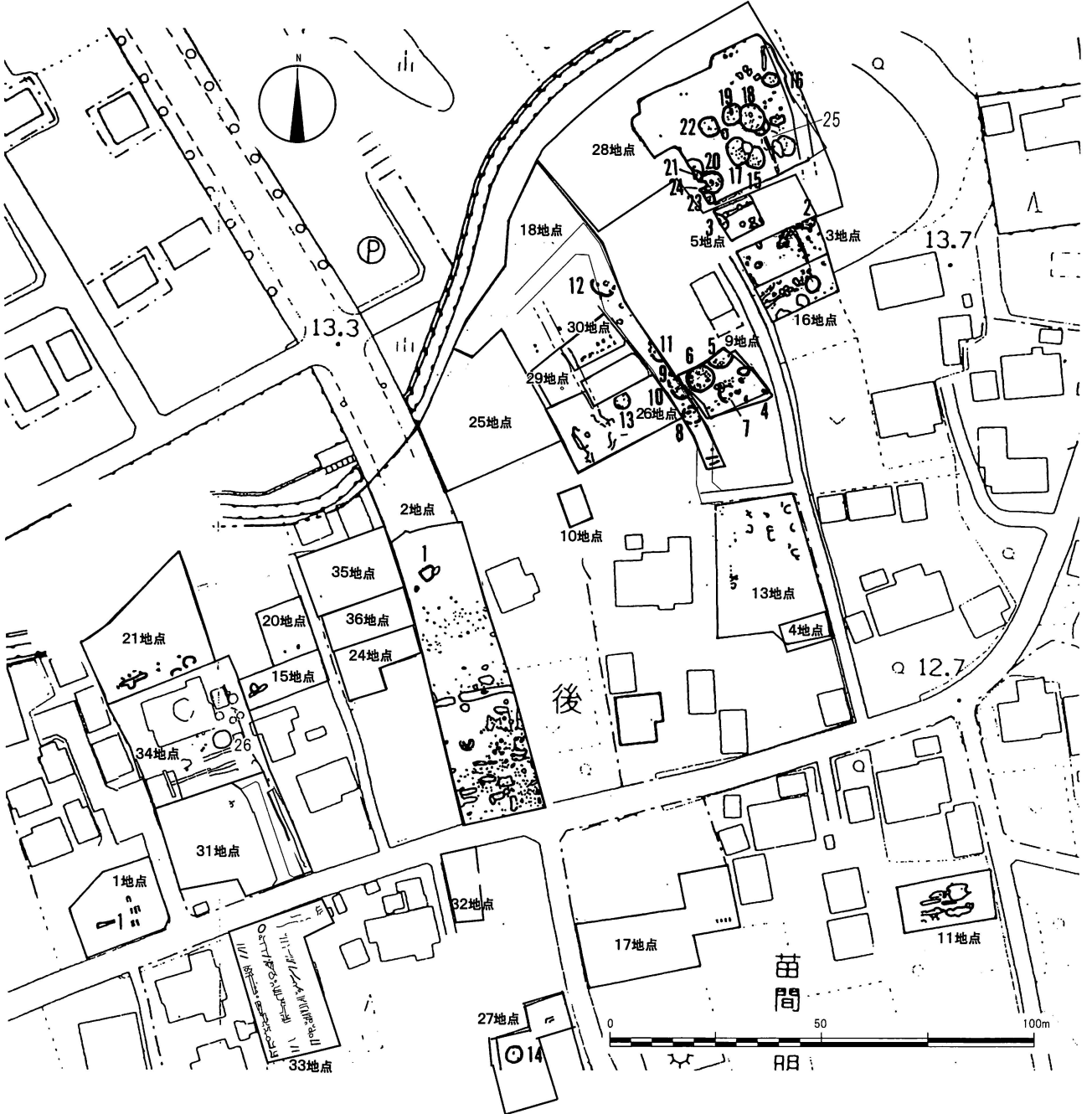
第 96 図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 47 表 神明後遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間 281-1	1993.5.6 ~ 11	615	共同住宅	遺構無し、平安時代須恵器片、陶器片	町内遺跡群Ⅲ
2	苗間 295-2,299-3	1993.5.12 ~ 20	1,688	道路築造	落とし穴 1、平安住居跡 1(H1 号)、縄文土坑 1、中・近世掘建柱建物跡、地下式竈 1、井戸、堀	町内遺跡群Ⅲ
3	苗間 309-12	(1995.3.24 ~ 29) 1995.4.3 ~ 5.19	200	分譲住宅	縄文住居跡 1(2 号)、伏襲 2、埋襲 1、土坑 2、ピット 34 他	町内遺跡群Ⅵ
4	苗間 302	(1996.6.17 ~ 19)	703	物置	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅵ
5	苗間神明後 395-5	(1997.3.15) 1997.3.15 ~ 4.2	80	個人住宅	縄文住居跡 1(3 号)、土坑 5、溝、他 縄文中期後半～後期初頭	町内遺跡群Ⅵ
6	苗間 255,227-2	(1997.9.29 ~ 30)	150	個人住宅	土坑 1、土器片・石器片	町内遺跡群Ⅶ
7	苗間 260	(1998.6.1 ~ 2)	1,460	個人住宅	近世地下室 1	町内遺跡群Ⅷ
8	苗間 235-1	(1998.7.13 ~ 24)	458	共同住宅	集石土坑 1、土坑 2、ピット 40、柵列 1、溝	町内遺跡群Ⅷ
9	苗間 310-1	(1998.9.1 ~ 11) 1998.9.14 ~ 10.15	219	共同住宅	縄文住居跡 4、集石土坑 1、落とし穴 1、縄文土坑 2、近世土坑 1、井戸 2、地下室 1、ピット 33	町内遺跡群Ⅷ
10	苗間 298-1	(1999.9.16)	44	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅸ
11	苗間 366	(1999.10.21) 1999.10.22 ~ 26	239	個人住宅	土坑 17、ピット 7	町内遺跡群Ⅸ
12	苗間 282-2,5	(2000.3.6)	211	共同住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅸ
13	苗間 302-1	(2000.4.17 ~ 19)	694	個人住宅	土坑 12、ピット	町内遺跡群Ⅹ
14	苗間 252-2	(2000.8.18 ~ 23)	357	共同住宅	土坑 1、近世掘建柱建物跡 1、溝 2、井戸 1、柵列、ピット 38	町内遺跡群Ⅹ
15	苗間 293-15	(2001.4.11) 2001.4.12 ~ 13	163	個人住宅	集石土坑 1 (阿玉台期)	町内遺跡群ⅩⅠ
16	苗間 309-14	(2001.7.23 ~ 24) 2001.7.25 ~ 9.3	165	個人住宅	縄文屋外埋襲 4、土坑 13、溝 2、地下式竈 1、地下室 1、竪穴状遺構 1、ピット 38	町内遺跡群ⅩⅠ
17	苗間 369-1	(2002.3.28)	581	個人住宅	近世溝	町内遺跡群ⅩⅠ
18	苗間 304-1,303-6	(2002.5.15 ~ 25) 2002.5.27 ~ 6.21	672	分譲住宅	縄文中期住居跡 5(8 ~ 12 号)、土坑、古代・中世堀跡	町内遺跡群ⅩⅡ
19	苗間 264-4	(2002.9.18 ~ 20)	216	個人住宅	根切溝、溝 4	町内遺跡群ⅩⅡ
20	苗間 293-11	(2003.1.14 ~ 15)	143	個人住宅	中・近世溝 2、ピット 2	町内遺跡群ⅩⅡ
21	苗間 283-1	(2003.1.10 ~ 30)	674	土地造成	ピット 7、井戸 1、近世地下室 2、土坑 1	町内遺跡群ⅩⅡ
22	苗間 235-2,3	(2003.7.8 ~ 29)	430	分譲住宅	井戸 1、土坑 10、ピット 38、江戸後期陶磁器	町内遺跡群ⅩⅡ
23	苗間 253	(2004.4.9)	62	個人住宅	地下室 1、銭貨	町内遺跡群ⅩⅡ
24	苗間神明後 293-4,10	(2004.9.30 ~ 10.7)	148	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群ⅩⅡ
25	苗間 295-1	(2004.9.30 ~ 10.7)	660	店舗併用住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群ⅩⅡ
26	苗間神明後 301,303-3,303-4,303-5,304-1,303-7	(2005.6.1 ~ 8) 2005.6.15 ~ 30	689	分譲住宅	縄文中期住居跡 1(13 号) 中世地下式竈、近世土坑 5、溝	調査会報告 18 集
27	苗間 248-2,249-1	2005.7.20 ~ 25 2005.7.27 ~ 29	385	共同住宅	縄文中期住居跡 1(14 号)	調査会報告 18 集
28	苗間神明後 306-1	(2006.5.8 ~ 31) 2006.6.29 ~ 10.5	2,171	宅地造成	縄文中期住居跡 11(15 ~ 25 号)、集石 23、土坑 5、落とし穴 1、竪穴 3、ピット、溝 4、古代・中世堀跡 1	市内遺跡 3
29	苗間神明後 303-21,24	(2006.5.8 ~ 11) 2006.5.12 ~ 19	136	個人住宅	ピット 1、古代・中世堀跡 1	市内遺跡 3
30	苗間神明後 303-1	(2006.5.8 ~ 19) 2006.12.14 ~ 19	101	個人住宅	ピット 12	市内遺跡 3
31	苗間神明後 284	(2007.8.3 ~ 7)	499	個人住宅	土坑 2	市内遺跡 4
32	苗間神明後 247-2	(2008.3.13)	136	個人住宅	近・現代掘乱	市内遺跡 4
33a	苗間 240-2	(2008.4.25 ~ 5.16)	298	個人住宅	落とし穴 1、中世以降溝 6、井戸 2、土坑 38、ピット 16	市内遺跡 6
33b	苗間 240-2	(2008.4.25 ~ 5.16)	357	分譲住宅		市内遺跡 6
34	苗間字神明後 283-1,284-1 の一部	(2008.4.30 ~ 5.15) 2008.5.16 ~ 28	1,693	個人住宅	縄文中期住居跡 1(26 号)、落とし穴 1、集石 3、ピット	市内遺跡 5
35	苗間字神明後 293 番 6,20	(2008.8.1)	247	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡 6
36	苗間字神明後 293-3	(2008.9.2)	165	個人住宅	ピット 1	市内遺跡 6
37	苗間 258-1 の一部	(2009.4.13) 2009.4.15 ~ 30	120	個人住宅	縄文後期住居跡 1	未報告
38	苗間字神明後 293-1,292-13	(2009.7.6 ~ 14)	265	個人住宅	中近世溝 1	未報告
39	苗間字神明後 264-1	(2009.8.5 ~ 12) 2009.8.24 ~ 9.1	378	共同住宅	中～近世溝 2、ピット 28、落とし穴 1	未報告
40	苗間 309-1	(2009.11.9 ~ 18) 2009.12.18 ~ 2010.1.15	156	個人住宅	縄文集石土坑 1、中世地下式竈 2、井戸 1、竪穴状遺構 1、土坑 9	未報告
41	苗間字神明後 298-1,299-1 の各一部	(2010.5.25 ~ 31) 2010.6.15 ~ 7.21	486	共同住宅	縄文時代集石土坑 1、中世の掘立柱建物跡、方形竪穴状遺構 16、溝 5、木炭窯 1、ピット 214、本調査 (140 ㎡)	未報告
42	苗間神明前 380-3	(2010.6.1 ~ 2)	312	宅地造成	遺構・遺物無し (隣接地)	未報告
43	苗間 292-14	(2010.10.20 ~ 22) 2010.10.22	107	個人住宅	中世～近世期ピット 7、本調査	未報告

第 48 表 神明後遺跡住居跡一覧表 (単位 cm)

住居 番号	調査 率	平面形 () は 推定	規模	が			埋 張	壁 溝	備考	時期	文献
				地 床	埋 設	石 開					
1号	10%	(円形)	不明	未掘				○	中世土塁の下	加曾利 E II	大井町史 資料編 1
2号	65%	(円形)	不明×435×16	○	○		有		土坑と複合	加曾利 E IV、 埋壁も E IV	町内道路群 VI
3号	45%	(円形)	410×不明×30			○	有		北平未掘	加曾利 E II 新	町内道路群 VI
4号	15%	不明	不明			○	不明	○	掘乱著しい	加曾利 E II 中	町内道路群 VII
5号	45%	(円形)	565×7×33	○			有		東北側未掘	加曾利 E II 新	町内道路群 VII
6号	95%	円形	586×542×45	○	②		②	有・ 建替	並張と建替各 2	加曾利 E (断古相)	町内道路群 VII
7号	70%	円形	不明×498×18	○		○	不明		東南部床まで削平	加曾利 E I 新(相)	町内道路群 VII
8号	70%	(円形)	580×?			○	不明		床面掘乱	加曾利 E I	調査会報告 16 集
9号	50%	(不整形)	(490×270)	未掘			有	○	10号に切られる	(加曾利 E I 新 新相)	調査会報告 16 集
10号	50%	不明	(300×250)×50	未掘				○	9号を切る	曾利Ⅲ式	調査会報告 16 集
11号	40%	(不整形)	(490×?)×55	未掘				○	貼床	加曾利 E II	調査会報告 16 集
12号	70%	(不整形)	(570)×550×80	○				○		加曾利 E III	調査会報告 16 集
13号	完掘	隅丸方形	343×370×13	○	○	○				加曾利 E I	調査会報告 18 集
14号	完掘	円形	404×403×20	○					2 本柱のみ	阿玉台 II	調査会報告 18 集
15号	完掘	円形	573×499×35				②		人Ⅰに張り出し有、 17 住を増める	加曾利 E III	市内道路群 3
16号	完掘	隅丸方形	338×337×25	②			○			加曾利 E II 新	市内道路群 3
17号	完掘	隅丸長 方形	684×525×70	②			○	有	並張 3、15 住に切 られる	加曾利 E I 新	市内道路群 3
18号	完掘	隅丸方 形	608×600×90	○		△	○	○	石開いの可能性有、 19 住に切られる	加曾利 E I 新	市内道路群 3
19号	完掘	隅丸長 方形	476×448×60	②		△			石開いの可能性有、 18 住を切る	加曾利 E II~III	市内道路群 3
20号	完掘	隅丸方 形	473×483×28			○			人Ⅰ近くに配石、 伏襲	加曾利 E II	市内道路群 3
21号	40%	(隅丸)	?×?×10	○				○	20、24 住より古い	加曾利 E I 新	市内道路群 3
22号	完掘	隅丸五 角形	491×513×113	○				○		加曾利 E I 新	市内道路群 3
23号	25%	不明	?×?×21	②		△			石開いの可能性有 20 住より古、 24 住より新	加曾利 E II	市内道路群 3
24号	10%	不明	?×?×55	未掘				○	20、24 住より古、 21 住より新	加曾利 E	市内道路群 3
25号	完掘	不明	(500×400)×5	○						加曾利 E II 新	市内道路群 3
26号	完掘	隅丸長方 形	585×486×31	○					土坑 1 より新、 落とし穴より旧	加曾利 E III	市内道路群 5



第 97 図 神明後遺跡遺構分布図 (1/1,500)

第 50 表 神明後遺跡第 33 地点出土遺物観察表 (単位cm)

図版 番号	掲載 番号	遺構名	種別・器種	口径・ 長	底径・ 幅	器高・ 厚	技法 / 文様 / その他	石材 / 推定 生産地	推定年代・ 時期	残存 / 備考
105 図	1	井戸 1	陶器・捕鉢	(32.2)	13.8	12.8	紐槌み轆轤成形。底部右回転糸切り後未調整。口縁と体部の境を指撫で / 櫛目 15 本単位 (4.5cm 幅) を見込みから放射状、左回りに重ね、見込みも短く櫛目を重ねる / 鉄釉 / にぶい赤褐色 / 見込みは磨り減り、口縁内側も細かく打ち欠く / 注№ 1 井 2	瀬戸・美濃	18C 第 3 四 半期	1/2 以上 残存
	2	井戸 2	焼締め陶器・捕鉢	—	—	—	紐槌み轆轤成形 / 櫛目 7 本単位 (2.3cm 幅) を放射状、左回りに重ねる / にぶい褐色 / 砂粒 (〜 6 mm) 極多量含む / 注№ 2 井 2		近世	口縁部片
	3	井戸 2	瓦	5.4	4.8	1.6	棧瓦の破片を円形に打ち欠く / 灰色 / 注№ 2 井 1		近世〜	
	4	土坑 3	磁器・茶碗	(10.0)	3.5	5.1	轆轤成形 / コバルト染付け、型紙絵付け / 注№ 3D	瀬戸・美濃	1880 年代〜	1/2 以上残存
	5	土坑 3	磁器・蓋	(8.7)	(1.9)	—	轆轤成形 / コバルト染付け / 注№ 3D	瀬戸・美濃	1870 年代〜	1/4 以上残存
	6	土坑 3	土製品・泥面子	2.6	2.3	0.6	型押成形 / 裏面に指頭圧痕。泥沙門天 / 橙色 / 砂粒少量含む / 注№ 3D		1790 年代〜 1890 年代	一部欠
	7	土坑 11	陶器・碗	—	3.5	—	轆轤成形 / 灰釉。高台無釉 / 灰白色 / 注№ 11D	京都・信楽	19C	底部片
	8	土坑 17	磁器・茶碗	7.8	3.6	4.6	轆轤成形 / 黒色と茶色の銅版絵付 / 注№ 17D		1890 年代〜	口縁部一部欠
	9	土坑 25	磁器・香炉	—	(7.0)	—	轆轤成形 / コバルト染付、クロム青磁。内面無釉 / 注№ 25D	肥前	近代	1/4 以下残存
	10	土坑 26	石器・縦長剥片	5.43	2.38	0.92	重量 9.67g。縦長剥片を素材とする。右側辺に使用痕有 / 注№ 26D	頁岩	旧石器時代	完形
	11	P6	銅製品・薄板	2.3	1.3	0.1	楕円形の薄板の端が折れた状態で発見 / 注№ P 6			
	12	溝 1	磁器・合子蓋	(4.8)	—	(1.4)	型押成形 / 口縁内側無釉。矩形文に染付け / 注№ 1M1	肥前	1650 〜 1690 年代	1/4 以下残存
	13	溝 1	磁器・水滴	2.6	6.0	4.0	上部と下部を型押成形後、合体 / 内面無釉、指頭圧痕。コバルト染付け / 注№ 1M カクラン	瀬戸・美濃	1870 年代 〜	1/4 以上残存
	14	溝 1	ガラス製品 / 医療用薬瓶	1.5	3.1	7.3	型吹き成形 (割型) / スクリュー栓用 / 無色・透明、気泡有り / 瓢箪型 / 注№ 1M カクラン		1920 年代 〜	完形
	15	溝 1	銭貨・銅貨	外径 2.33	穿径 0.65	0.10	重量 1.75 g 鋳造 / 「寛永通寶」新寛永 / 注№ 1M カクラン		1697 〜 1781	完形
	16	溝 2	磁器・茶碗	—	(3.5)	—	轆轤成形 / 染付け。二重網目文。高台二重圈線。高台皿付無釉 / くらわんか手 / 注№ 2M2	肥前	1700 年代〜 1800 年代	底部片
	17	溝 2	製錬滓・炉内滓	6.6	10.2	4.8	重量 156.5g スサ入炉壁がガラス状に溶融し、炉底の滓が付着したもの / 注№ 2M3		古代	炉壁〜炉底
	18	遺構外	磁器・小杯	(6.5)	3.0	4.2	轆轤成形 / コバルト染付と緑色の銅版絵付。傘と朝顔。高台皿付無釉 / 注№ 1 トレ 1		1890 年代〜	1/2 以上残存
	19	遺構外	磁器・茶碗	8.2	3.0	4.8	轆轤成形 / コバルト染付の型紙絵付。松竹梅。高台皿付無釉 / 注№ 2 トレ 1		1880 年代〜	完形
	20	遺構外	磁器・湯飲み碗	5.1	3.5	5.8	轆轤成形 / コバルト染付の銅版絵付。桜、鶴。高台皿付無釉 / 注№ 2 トレ 1		1890 年代〜	完形
	21	遺構外	石製品・板碑	11.4	26.6	2.5	注№ 2 トレ 1	緑泥片岩	中世	1/4 以下残存
	22	遺構外	ガラス製品 / 一般用薬瓶	2.3	3.4	9.0	型吹き成形 (割型) / コルク栓用。角瓶 / 表「脳丸」「人物絵」、裏「山崎帝國堂」の陽刻。無色・透明、気泡有 / 注№ 1 トレ 2 № 1		1900 〜 1920 年代	完形

Ⅲ 神明後遺跡第 34 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2007 年 12 月 19 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央北に立地し、隣接地では集石や地下式坑、溝跡等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2008 年 4 月 30 日から同年 5 月 15 日まで行った。幅約 2 m のトレンチを 5 本、幅約 1.5 m のトレンチを 1 本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、縄文時代の遺構・遺物を確認したが、遺構確認面まで 40 cm と浅く、工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

本調査は原因者と発掘調査に係わる委託契約を締結した上で 2008 年 5 月 16 日から同年 5 月 28 日まで、ふじみ野市教育委員会が行ない、縄文時代の住居跡 1 軒、落とし穴 1 基、集石 3 基、中世以降の土坑、ピ

ットを検出した。

(市内遺跡群 5「神明後遺跡第 34 地点の本調査」参照)

Ⅳ 神明後遺跡第 35 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2008 年 6 月 24 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地し、隣接地では住居跡や集石等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2008 年 8 月 1 日に行なった。幅約 1.5 m のトレンチを 3 本設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、時期不明のピットを 1 基検出したが、その他に遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。北側の斜面に向かって傾斜していき、70 cm 以上の盛土で造成されていた。確認面まで 130 cm を測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

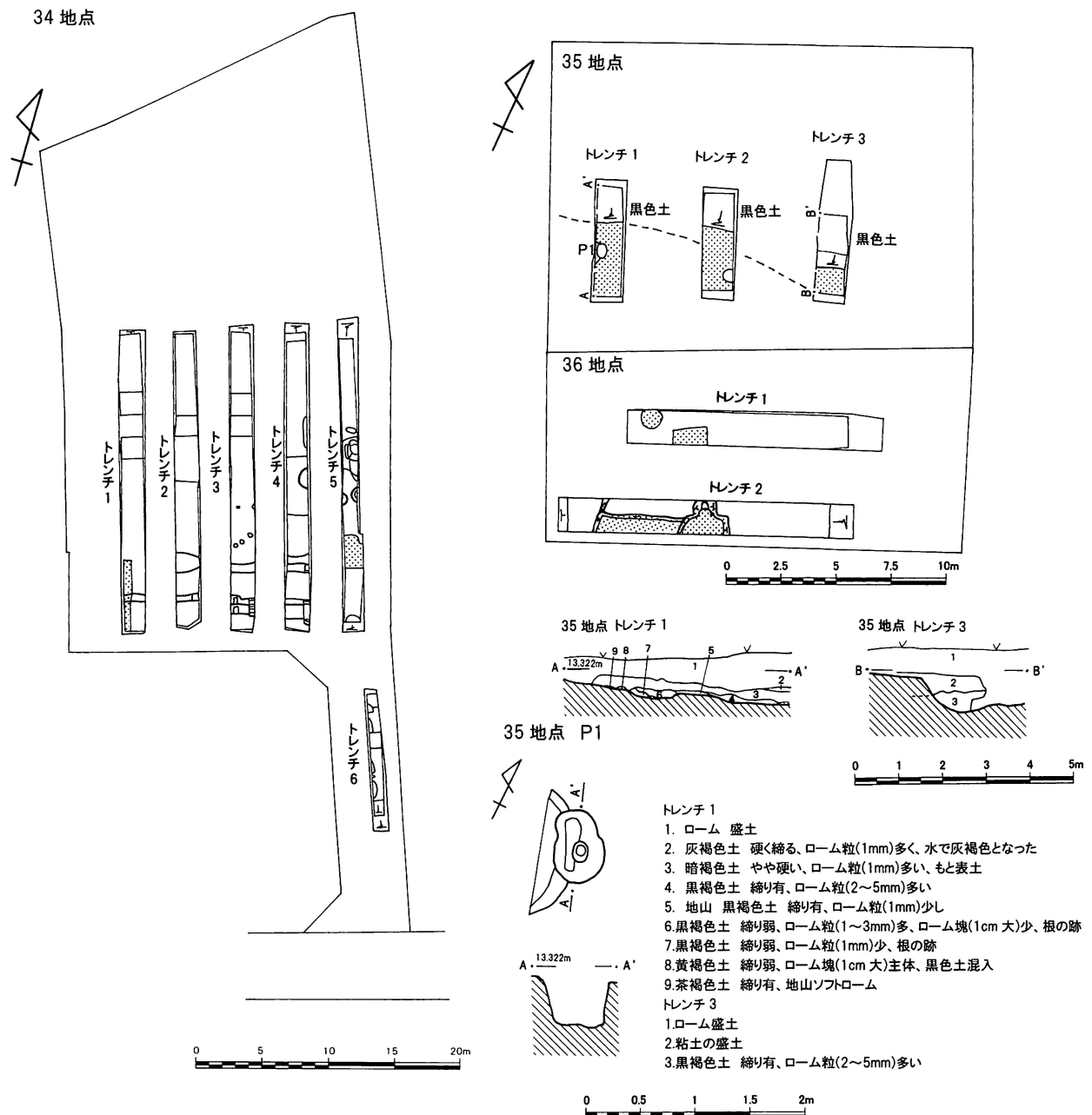
V 神明後遺跡第 36 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2008 年 8 月 19 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地し、隣接地では住居跡や集石等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2008 年 9 月 2 日に行なった。幅約 1.5

m のトレンチを 2 本設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、黒褐色の遺構らしき範囲を検出したので調査したが、自然の窪みであった。その他に遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで 60 ～ 100 cm を測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第 106 図 神明後遺跡第 34 ～ 36 地点遺構配置図 (1/500・1/300)、土層図 (1/150)、ピット (1/60)

神明後遺跡第 34 ～ 36 地点



神明後遺跡第 34 地点全景



神明後遺跡第 34 地点トレンチ 2



神明後遺跡第 34 地点トレンチ 3



神明後遺跡第 34 地点トレンチ 4



神明後遺跡第 35 地点トレンチ 1 ピット 1



神明後遺跡第 35 地点トレンチ 3



神明後遺跡第 36 地点トレンチ 1



神明後遺跡第 36 地点トレンチ 2